

第2次市民協働推進基本計画の進行管理の方法について

1 進行管理の方法

各基本施策に設定した成果指標等を基に各基本施策を評価し、計画全体に設定した3つの成果指標の達成状況と併せて、計画全体の評価と総括を行う。なお、各基本施策の評価にあたっては、各基本施策に位置付ける主な取組の評価も行う。

2 一次評価（行政の評価）

（1）基本施策の評価

ア 基本施策内の主な取組の評価

（ア）成果指標を設定している取組

成果指標の実績値を基に具体的な取組内容を踏まえ、表1のとおり5段階の評価を行う。

（イ）成果指標を設定していない取組

表2を基準に5段階の評価を行う。

イ 基本施策ごとの評価

上記アの評価を基に表3のとおり5段階の評価を行う。あわせて、評価に加味した事項や特筆すべき取組、今後の課題と重点的に取り組む内容を示す。

（2）計画全体に設定した3つの成果指標の評価

成果指標の実績値を基に表1のとおり5段階の評価を行う。

3 二次評価（審議会の評価）

（1）計画全体の評価

行政が行った成果指標及び各基本施策の評価を確認し、表3を目安に5段階の評価を行う。

（2）計画全体の総括

各基本施策の今後の課題・取組を踏まえ、計画を進める上で重視する考えなどを示す。

【表1】

評価	目安
S（十分に効果が現れている）	目標値の110%以上
A（効果が現れている）	目標値以上
B（一定の効果が現れている）	基準年の実績値以上だが目標値は下回った
C（効果が現れていない）	基準年の実績値を下回った
D（全く効果が現れていない）	基準年の実績値の90%を下回った

※基本施策3のNo.2及びNo.3の評価は目標値が基準年の実績値を下回っているため、上記目安の「目標値」と「基準年の実績値」を入れ替えて適用する。

【表2】

評価	目安
S（十分に効果が現れている）	新たな取組又は工夫を行い、大きな効果があった。
A（効果が現れている）	新たな取組又は工夫を行い、効果があった。
B（一定の効果が現れている）	新たな取組又は工夫を行った。
C（効果が現れていない）	従前の取組を踏襲した。
D（全く効果が現れていない）	従前の取組が行えなかった。

※工夫には、効果が見られなかった事業を廃止することも含む

【表3】

評価	目安
S（十分に効果が現れている）	全ての取組がA以上の評価
A（効果が現れている）	全ての取組がB以上の評価で、A以上の評価が一つ以上ある
B（一定の効果が現れている）	他に該当しないもの
C（効果が現れていない）	全ての取組がB以下の評価で、C以下の評価が一つ以上ある
D（全く効果が現れていない）	全ての取組がC以下の評価